No.11
1988年
(昭和63年)

同窓会だより

—発　行—
旭川荘厚生専門学院同窓会
岡山市祇園地先
TEL(0862)75－0145
—編集責任者—
同窓会会長　堀内　絹江

岡山支部結成に向けて

同窓会会長　堀内絹江

同窓生の皆様お元気ですか。同窓会名簿はお手元に届いたでしょうか。それをたよりに交友も深まった方もおありかと思います。

年に一度のお便りですが、母校の発展の様子をお伝えすると同時に、ともに学び巣立った学友が、旭川の地に咲く草花を各地で温め育んで下さっているプロフィールをお届けする機会でもあります。

学院の発展を支える同窓会としまして、大所帯をきりまわす要の岡山に支部結成を願い準備しております。是非同窓会総会に御出席いただきたく、活力ある会運営にと、御助力承りたく皆様の御参加を心よりお待ちしております。

昭和63年3月現在

卒業生数	2,173名
保育科	609
第1看護科	575
第2看護科	989

学院長 江草安彦先生「藍綬褒章」ご受章

学院長であり、旭川荘理事長でもある江草安彦先生には、昭和六十三年春の褒章において、多年にわたり社会福祉に貢献されたご功績が認められて、五月二十六日、栄ある「藍綬褒章」をご受章されました。

心からお祝い申し上げますとともに、先生が益々ご健康で、ご活躍なさいますようお祈り申し上げます。

同窓会総会御案内

日時　十一月六日(日)
　　十一時～十二時
場所　母校 図書館

同期の方を、お誘い合わせて多数御参集下さい。

第17回学院祭御案内

日時　十一月五日(土)
　　～六日(日)

統一テーマ
〝ふれあい〟
「あなたの瞳に微笑を」

同窓会役員 本部役員

会長	堀内絹江
副会長	守屋礼子・藤 繁子
会計	山本基子・羽井佐米子
書記	安達文子・備中ひとみ
監事	佐藤由香・猪原正子

同窓会支部結成の動き

同窓会も、会員二千二百名の大世帯となり広く各地で活躍されています。そこで昨年の総会において、支部づくりをすすめて、支部の会をできるところから開催してゆくことが話し合われ決められました。

皆様におかれましては、できるところから支部（地域）づくりをお願いいたします。支部の会（地域の会）をおもちのときは学院からも出席させていただきます。事務局はご要望によりお手伝いをさしていただきますので、宜しくお願い致します。

同窓会員名簿についてお願い

昨年同窓会員の名簿を発行しましたところご好評をいただき有難うございました。

まだ余部がございますので、ご希望の方は代金千円を添えてお申し込みください。

また、同窓会員名簿をご購入された方で代金未納（お忘れ？）の方は至急に代金を納入してください。

ご挨拶

学院長代理　阪本　暁夫

会員の皆様には、いよいよご健勝でご活躍のことと心からお慶び申しあげます。日頃から旭川荘ならびに同窓会のために多大のご協力・ご援助を賜っていますことを深く感謝申しあげます。

さて、本学院の発展のためにご尽力くださいました三宅学院長代理が、六月の荘内異動により研修センター所長になられました。

先生は学院の施設・設備面の充実は勿論のこと、伝統と校風を一層盛りたてられるなど、数々の業績を残されました。その後任として私がお世話になることになりましたが、責任の重大さに身の引き締まる思いをしております。前任者の残されました数々の業績をよく受け継ぎ、江草学院長のお心を心として、二十一世紀にはばたく学生達のためのよい環境づくり、人間づくりに誠心誠意努力する所存でございます。

皆様方には、今後機会あるごとに心のふるさと母校にお気軽にお立ち寄りくださいまして学院の実情をつぶさにご覧のうえ、なにかと後輩や母校のために末永くご支援・ご指導を賜りますようお願い申しあげます。

終わりに教職員一同とともに皆様方が何時までもご健康でお幸せでありますことをお祈りしてご挨拶といたします。

新設科「福祉科」について

急速な高令化社会を迎え、社会福祉分野にも国家資格の専門職が導入される時代となって来ました。

こうした社会情勢にこたえて介護福祉士の養成指定校として、本年四月正式に指定を受け（岡山県では本学院のみ）新入生五十一名を迎えて新発足いたしました。

介護福祉士とは、身体上あるいは精神上に障害がある方に対しての介護と、介護を行う者を指導する専門職であり、学習内容も一般教養科目のほかに専門科目として医学一般や社会福祉概論、老人福祉論、障害者福祉論等教室での学習の他に、現場実習が四五〇時間と重視されます。

学院だより

◎修学旅行
保育、第一・二看護科の二年生が沖縄、東京、中部、高知の四班に希望により分かれ、9月6日出発、施設見学、病院見学、交流を実施した。

◎戴帽式、キャンドルサービス
看護科　一年生
10月21日　学院講堂

◎キャンドルサービス
保育科、福祉科　一年生
10月24日　学院講堂

◎卒業演奏会
保育科　二年生
2月26日　県総合福祉会館

◎コンピューター実習室
図書館2階に、16台のコンピューターを備え、卒業までに全員が受講する予定。

人事異動について

○退任の先生
看護科　守屋芳子先生御退職
〃　三村清子先生児童院へ

○新任の先生
副学院長兼福祉科長　岡本克敏先生
保育科へ　豊福恵子先生
福祉科へ　三原博光先生
〃　歳森恵己子先生
〃　柚木恒子先生
看護科へ　風早信子先生
〃　山下幸恵先生
図書館へ　山本安恵先生
事務室へ　片山晴美先生

「ゆずりは会館」

第3号館の南に、鉄筋コンクリート三階建「ゆずりは会館」（七三三㎡）が本年四月竣工しました。

一階は、バンビの家（情緒障害児訓練室）

二、三階は研修室とホテル並みの宿泊室。

卒業生も御利用下さい。

おたより

保育科

保育科　三上　純子
第1期生（旧姓　能沢）（楢原町）

同窓生の皆様、お元気でお過ごしでしょうか？　楢原町で暮らし始めて十年が来ました。主人と二人きりで、主人は備前焼の作陶に、私は展示会の準備やら販売で、多忙な毎日を過ごしております。

山を背にして吉井川を望む静かなところですので、津山方面にお越しの際は、お立ち寄りください。

保育科　今谷　功子
第1期生（旧姓　薦田）（岡山市）

皆様、こんにちは。学院を巣立って早いもので十四年の月日が流れました。保育科一期生から四名、旭川荘に就職しましたが、今では私一人になってしまいました。「愛育寮」→「みどり学園」を経て開設と同時に「みどり授産センター」へ異動し、勤務して五年目に入りました。昨年から荘内にできた通勤寮「ギオンハイツ」にも当直で入ったり、色々な経験をさせてもらっています。施設によって様々な経験を学ぶことができたのはとてもラッキーでした。

「みどり授産センター」では、園生達とブローチづくり、畑、クリーニング作業に励み、作ったブローチを保育園バザーから大学祭迄、幅広く販売に行かせて頂き、収益をあげ、園生達の作業手当に還元しています。

時々、壁にぶつかったりすることもありますが、色々な人達との出会いや本、園生達とのふれ合いで乗り切れているようです。

「ひとりの手」の歌にあるようにみんなの手と手をあわせれば強くなれるよろこびを知る毎日です。

保育科　山口　広美
第2期生（旧姓　光長）（喜多郡）

先生方、それから保育科二期生の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。卒業して十五年になります。でも岡山での二年間は、私にとって今もなつかしい大切な思い出の日々です。

現在、私は肱川町と言って、愛媛県の南予地方の小さな町に住んでいます。まだ二年目ですが、景色も空気もいいし、何より近所の人がとても親切です。子どもは小学一年（男子）、小学二年（女子）の二人。親子四人で教員住宅におります。主人は肱川中学校の教員です。毎日忙しい忙しいと仕事に頑張っています。子どもたちは、家の前の川で泳いだりトンボとりに走りまわったりと元気いっぱいです。私は近くの食料品店に一日二～三時間アルバイトをしに行っています。毎日平凡ですが、でもこれが幸せなんでしょうね。来年には同窓会に出席したいです。皆様お元気で！

保育科　日野れい子（愛媛県松山市）
第4期生

いつも同窓会だよりや学院祭などの御案内を頂くばかりで申し分けなく思っております。学院祭には、勤務の関係でどうしても出席することができません。本当に申し分けありません。

学院を卒業して早くも十年以上の月日が過ぎました。同期（四期）のみなさんは、今ではほとんどの人が母となって頑張っています。私はといえば、今だにひとりで生きています。（なんとも寂しいことです。）

学院での二年間の生活は、私にとってとても実のあるものでした。生まれて初めての寮生活やアルバイトなどを通して、たくさんの思い出ができました。勉強よりもバイトに精を出していた様な気もしますが……。

でもバイト先（愛育寮）の子供達との出合いによって現在の私があるのですから、学院の先生方、そして愛育寮の子供達や職員の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にお世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。

学院も随分と変ったことでしょうね。私、いつかお邪魔させて下さい。

学院の諸先生方の御健康と、学院のますますの御発展を心よりお祈り申し上げます。

保育科 第5期生 **太田いづみ**（旧姓 今田）（岡山市）

学院を卒業して、はや十一年。この十一年、本当に駆け足ですぎ去った気がします。今、ふりかえってみると、学院ですごした二年間が、とても懐かしく、のんびりとした花園地先の風景とともに思い出されます。みんなで汗を流しながら登った竜の口神社、吉備青年の家での教育キャンプ、私の指はなんてお馬鹿さんなんだろうと悩んだピアノ…。どれもこれも、私の青春時代の宝です。

私は卒業して、まもなく結婚。せっかく勤めた保育園も、妊娠の為二年で退職。それからは、今年、小学校二年生になる娘の子育て一筋です。

四年前、大病にかかり、半年入院。もうだめかなと思いながらも、家族に励まされ、二年間の自宅療養で今は本当に健康にすごしています。

娘も、あと数年すると、私の手をはなれていくでしょう。いちばん母親の必要な時代に手をかけてやれず、今になって、子ばなれできない母親になっています。

最後になりましたが、皆さま、どうぞ健康で御活躍下さいませ。

保育科 第7期生 **萩尾　弥生**（旧姓 大野）（愛媛県野村町）

只今、私、精神者更生施設で事務員として頑張ってまーす。

二児の母・妻・事務員・婦人会組長・PTA学年会長等々、忙しい毎日で、一番手ぬきの犠牲になっている夫や子供に、手をあわせている今日この頃です。

事務の仕事だけでなく、時には指導員の仲間入りをして作業をしたり、スポーツ大会に参加したりして、体力つけてます。

瀬戸大橋も出来たことだし、また、旭川荘の方へ遊びに行きたいと思います。皆さんも、愛媛県の方へ来られましたら、少々（だいぶ）山の中ですが遊びに来て下さい。有性卵の卵もありますよ！

保育科 第7期生 **栄野恵美子**（旧姓 末藤）（倉敷市）

専業主婦歴七年の私は、今年度中に三十路の峠を越え、増々、立派な"おばちゃん"に…。三人の男児に囲まれて、性格までもが変ってしまったと思うこの頃。でもやっぱり、"夢"は持ち続けたい。施設保母を目指していた学院時代と、その夢の形は変っても。現場でバリバリ働いておられる方々をちょっぴりうらやましく思いつつ、「私は私」と、自分の生活の中で、福祉への関心を持ち続けようと思います。

故郷を遠く離れて頑張れるのは、学院時代のあの向学心（？）や、友達とけんかしたり遊んだ思い出が、たくさんあるからだと思います。南国、奄美大島も、秋の気配を感じさせます。「旅」しに来て下さい。

保育科 第8期生 **田中　夕美**（旧姓 明石）（広島県沼隈町）

保育科八期でお世話になりました諸先生方、御元気でいらっしゃいますか。

学院で共に学んだ皆様が、各地にてそれぞれの信じる道を選ばれて、仕事に家庭にと、お力を注いでいらっしゃることを、お祈り申し上げています。

私が卒業と同時に広島の山奥（？）に就職させていただいて、はや九年の年月を重ねました。二・三年で岡山へ帰ろうと思っていましたのに、五年前にこちらの造船マンと縁を結び、現在、四才と二才の子持ちです。

仕事の方も、「ゼノ少年牧場」という精神薄弱者（児）を中心にいくつかの施設を複合する施設群のひとつの「成人更生の寮」で現役で頑張っています。入所者の方と共に"牧場"という名にふさわしく種々の動物を飼っているのですが、本当に、毎年新しい分野に取り組ませていただき、「万年新人」の様な気持ちで、とにかく明るいだけがとりえでやっています。

時々、学院の目をみはる発展に、なつかしく又誇りをもって遠目ですが、拝見しております。母として、妻として、そして障害を持つ人々と共に歩む者として、又一人の人間として、これからも学院での教えや仲間との思い出を胸に一日一日を重ねていきたいと思っています。ぜひ、「ゼノ」の名をたずねて、一度おいで下さい。

保育科 第8期生 **福田美智子**（旧姓 三羽）（岡山市）

保育科八期生の皆さん！　お元気してますか？

愛称ミッチは、四才と三才の二児の母をしながら、お勤めに家事に育児に、戦争のような毎日を過ごしています。

一言、お願いですが、毎年の同窓会には多数の参加を呼びかけています。みんなで昔を語り合いましょう。待ってます。

保育科 第9期生 **青木　泉**（井原市）

早いもので、学院を卒業して八年目を迎えました。卒業と同時に開園した笠岡市にある「ときわ学園」に就職し、五年目に同法人の「ほほえみ授産センター」に開所の為転勤し、又、この四月に古巣の「ときわ学園」へ帰ってきました。五月には、遅ればせながら結婚し、主婦業と仕事の両立に奮闘する毎日を送っています。

卒業生の方達の中にも、たくさん両立し頑張られていると思いますが、その方たちに負けないよう、これからも、学園の子どもたちの為、いつかは生まれる我が子の為、そして主人の為、いい先生・妻・母・女でいたいと思う今日この頃です。

保育科 第9期生 **影山　一美**（旧姓 梶並）（勝田郡）

保育園の子どもたちが時々間違えて「おかあさん」と呼んでくれる度、嬉しい様な気分になっていた私も、この一月に本当に"お母さん"になりました。生まれた時からよく動く我が子に「大きくなったらかけっこ一等賞になるかなー」なんて、早くも期待して親バカ振りを発揮しているこの頃です。仕事と家事と忙しさの中で一日が過ぎて行きますが、我が子の笑顔に迎えられると疲れも吹き飛んでしまいます。一日中一緒に居てあげられない分精一杯愛情を伝えてあげたいと張り切る新米ママの私です。

又皆さんの近況も知らせて下さいね。九期生の皆さんもきっと様々な立場で二十代後半を素敵に頑張っておられることでしょうね。

保育科 第10期生 **山本　典子**（兵庫県高砂市）

日頃すっかり忘れかけてしまっていそうな学院生時代のことが、なつかしく思い出されます。もう遠い昔のことのようです。

現在も、福祉職員として頑張っておりますが、私たちのようにのんびりとした施設にいましても、福祉が今大きく変わろうとしていることをひしひしと感じています。

ぼんやりしていると取り残されてしまいそうでもありますので、この場をおかりしまして、学院長様、諸先生方にお願いがあります。「社会福祉士及び介護福祉法」が成立し、学院でも本年度から介護福祉士の資格が認可されたということですが、この際、現場で働いている私たちにも資格取得の道を開いていただきたいと思うのです。これはけっして私一人の意見ではないと思います。一方的なお願いではありますが、よろしくお願いいたします。

保育科 第11期生 **横溝美奈子**（旧姓 小見山）（倉敷市）

学院の諸先生方、十一期生のみなさん　お元気ですか？　早いもので卒業して五年がたちました。仕事、家事、育児等、皆それぞれに頑張っていることでしょう。

私は、卒業後、旭川荘に就職しましたが、たった二年でやめ、家庭に入ってしまいました。現在、二才二ケ月の男児がおり、子育て真最中です。十二月には二人目も産まれる予定です。子育ても随分大変で、なかなか教科書通りにはいきません。手を出したり、大声を上げたりで、つい感情の方が先走り後で悔やむことの多い毎日です。施設での仕事もしたいけど、今は育児に専念するつもりです。又、皆んなで会いたいですネ。

保育科 第11期生 **高越　和代**（旧姓 中村）（倉敷市）

"人間は生きるために生まれてきた"これは、最近、新聞の投稿欄に載っていたことばです。

六月二一日、高校時代の友人が亡くなりました。急性心不全　二五才でした。突然の出来事で今だに信じられない思いです。亡くなる二ケ月程前に聞いた彼女の声は、元気そうで、仕事のこと、恋愛のこと、趣味のことなど楽しそうに話していました。「あの子はあの子なりに充実した人生だったと思います」そうおっしゃるお母さんにただうなづくばかりでした。

現在、私には、二才の男の子がひとりおりますが、産んでみて命の貴さ、喜び、痛みを体で感じることができました。そして、人生が変ったような不思議な気分になりました。

人の生死に出会うごとに生きることの重みを感じますが、喜びや悲しみは生きているからこそなんだと思うと、日頃の悩みや愚痴もつまらな

くさえ思えてきます。
人生いろんなことがありますが、お互いに一生懸命生きていきましょう!!
子どもと走り回ると息切れし、体力の衰えを感じている専業主婦三年目のナカコでした。
また、みんなで団結おどりがしたいなァ……。

保育科　第12期生　**神崎　瞭子**（滋賀県大津市）

学院の諸先生方、そして同窓生のみなさん、お元気ですか？岡山を離れ、滋賀の第一びわこ学園に来て、もう四年半がこようとしてるんだなあ、としみじみ感じつつ、時々、私の耳にも届く先生方のおうわさや友だちの話を聞いては、なつかしく、学院時代を思い出しています。
私は、六月から病棟が変わり、自分で動けたり話ができる子どもたちの病棟から、寝たきりで病弱な子どもたちのいる病棟になったのです。中でも、私の所属するうさぎグループは、びわこ学園の中でも、年少で一番病弱な子どもたちのいるグループなのです。ごはんも、口から食べられず、鼻からチューブを入れて命をつないでいるのです。そして、絶えずせきや痰が出るので、「ゴホン!」と聞こえると、ダーっと走っていって、吸引器で痰をとってあげなければなりません。子どもたちの生きるために戦っている姿に感動するとともに、毎日が、緊張の連続!という感じ。一日が無事過ぎるとホッとして、しばし遊びのCDじゃないけど、ドッと部屋にたおれ込んでます。
でも、つくづく、仲間がいるからこの仕事がやっていけるんだなぁと思います。子どもたちの生活に責任を持ちたいと、がんばっている仲間たちがいるから……。
そして、私は、どんな生き方をしたいのか…もっと自分の生活を見つめ直したいなぁと、最近、特に思います。（年齢が、そうさせるのか？）
それでは、みなさんもお元気で!

保育科　第13期生　**浅井　淳子**（岡山市）

肌寒い朝と空の雲が秋を感じさせる様になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。
私の方は、夏休みが終わり、秋の旅行、運動会そしてお祭りと、もう準備が始まっている今。いづみ寮で働く様になって、はや四年。学院生活がなつかしく思われます。
夏の空や秋の空が色々な表情をする中で、寮生の笑顔のウソのない事に感謝させられる毎日です。

保育科　第13期生　**佐々木知子**（大阪府）

夏らしい夏もないまま秋に向っていますが、この夏、皆様方はどのように過ごされたのでしょうか。私は、年ごとにたくましくなる体をうらめしく思い、ムダとわかっていて日焼止めを塗ったり…。四年目ともなると日曜大工、土方も一応こなせるようになりました。しかし料理、裁縫はあと何年かかるでしょうか。
金剛山を窓から眺め"明日の天気は？""明日はどうしようかな？"と想いつつ、今日も取っ組み合い。生キズの断えない日々を過ごしています。

保育科　第14期生　**稲岡　弘子**（岡山市）

学院の諸先生方、同級生の皆さん、それぞれ各方面で活躍されていることと思いますが、お元気でお過ごしでしょうか。学院では福祉科が新設されたとのことで、ますます専門的なすばらしい後輩の方々が、これから巣立っていくことを誇りに思っています。
私が勤務しております特別養護老人ホームは、六年目のまだ新しい所です。その為、いろいろな試行錯誤の末、お年寄りの為に一番よい方法をと、職員全員で努力しています。昨年四月からオープンしたデイサービスセンターの方も、なかなか評判がよく、たくさんの方が利用されています。
今年十月（予定）には、県下初の老人保健施設（中間施設）がオープンします。今は、その準備で大変ですが、県下初ということで、全国的にも注目されています。
機能訓練を中心とした生活をして頂きますので、職員の方もリハビリテーションについての勉強が必要となっている為、私は、今大変苦労しています。どうぞ後輩の方々は、私のようにならない為にも、学生時代にしっかり勉強なさって下さいね。
同級生の皆さん、それぞれ大変な職種ですので、がんばりましょう。人間相手の職業は本当にやりがいがありますから…。

保育科　第14期生　**小郷　恵子**（津山市）

その後、皆様、お元気でお過ごしでしょうか。
私は、相変わらず元気にしています。そうですねぇ、変ったことと言えば、この秋結婚することと、一匹子犬が増えて家の中で二匹の犬がゴロゴロしていることかな。
今は、結婚のため、七月いっぱいでアルバイトもやめ、準備やら何やらで過ごす…はずだったのに、何の因果か親にこきつかわれる？ハメとなり、毎日種苗くんだりまで通っております。
まぁ、親孝行のつもりで、がんばろう!と自分に言い聞かせております。
それでも、学院祭の頃には、専業主婦をしてると思うから、今のうちしっかり働きましょう。
それでは、皆様の御健康と御活躍を心よりお祈りしております。

保育科　第15期生　**山下　馨**（倉敷市）

同窓生の皆さん、お元気ですか？私は、倉敷市社会福祉協議会の方へ就職して、あっという間に一年半が過ぎようとしています。同じ福祉といっても、事務が主で、会費や共同募金の徴集、各種団体の事務局、雑務など、ほとんど保母資格が生かせませんが、地域の方々の期待にそえるように、と生きがいを感じながら頑張っています。それでも年に何度かある身体障害者協会の一日バス旅行、母子との雪あそび、ボランティアなどの仕事もあり、学院時代の教科書やノートを広げることもあります。
とにかく、いろんな事に挑戦しながら、楽しく仕事をしています。
皆さんも、好奇心をもって、いろんな事に挑戦して頑張って下さい。
最後に、十月一日から「赤い羽根、共同募金」が始まります。御協力お願いします。

保育科　第16期生　**田口　純子**（備前市）

学院を卒業して五ケ月程たち、仕事もだいぶ落ち着いて来て、毎日毎日なんとかすぎているこの頃です。病院勤めのため、どこへ行っても看護婦さんと間違えられることも多いですが、楽しく仕事をさせていただいています。最初なかなか慣れてくださらない患者さんもいたのですが、「友達」からはじめて接して行くうちに慣れてくださって、その方がなくなる寸前まで「友達」と言って下さったことは決して忘れることはないと思います。これからも患者さんといろいろな出会いや別れが多々あると思いますが、それらを大切にして頑張っていきたいと思ってます。
毎日毎日がとてもためになり、よい勉強になっています。机の上で学んだことの復習であり、実習であることもあります。これからも、机の上だけでない勉強を頑張っていきたいと思います。

保育科　第16期生　**守屋　尚子**（笠岡市）

ご無沙汰しております。これでもかと降り差す太陽の下、私は笠岡の奥にある虚弱児施設で、元気に子供と遊び暮しています。狭い部屋に男児五人と頭と足をくっつけながらの生活です。時に息苦しいですが、六人でワイワイと楽しいものです。
学生の頃、先生から"とにかく子供と遊びなさい"の言葉を胸に頑張っています。しかし"善を善と、悪を悪と"言いきかすのは、たやすくはないものです。この困難にぶつかりながら、自分自身の心の成長をと思っています。
最後になりましたが、先生方のご健勝をお祈り申し上げます。

第一看護科

第一看護科　第3期生　**猪原　正子**（倉敷市）

卒業生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか？　学院は、福祉科が新設され、ますます大きく立派になり、私の在学の頃とは大変変わってしまったようです。まだ卒業後一度もおとずれてない方は、来てみて下さい。建物も増えてます。
学院の事はさておき、私はというと、卒業後、手術室という特殊な所へ就職して、六年目になります。新しい所での仕事は、気をつかい、覚える事がたくさんで、学生の頃よりも本をひらいて見る事、勉強しなおす事も多くありました。今は、医療、

MEの進歩に毎日、奮闘しています。先輩として指導の立場になると、まだまだ勉強しなおす事も多くあり、若い後輩達とがんばっています。在学の皆さん、基礎はしっかり頭に入れておいて下さい。就職したら、応用ですから。と先輩づらしてしまいましたが、経験から書いてますので。たいそうな事を書いてしまいましたが、まだ独身でがんばってる同期の方、連絡下さい。結婚された方、元気にしてますか？　また、何年か先に同窓会できたらいいですね。またお会いできる日を期待して、皆さんお元気で!!

第1看護科
第4期生　**定本　容子**（岡山市）

第一看護科四期生の皆さん、お元気ですか。もうすでに、ステキな御主人とカワイイ赤ちゃんとHappyな家庭をもっている方も少なくないと思います。

私は現在も川崎医大附属病院の整形外科病棟に勤務しています。一、二年の無我夢中でやってた頃に比べ今はスタッフの中でも中堅。少し落ち着いて自分なりの看護を求め、充実した日を送っています。真剣に患者さんに関わりながら感動の毎日です。

さて、この夏、私はアメリカに行きました。〝生きがい療法〟って御存知ですか？　昨年、ガン患者三人がモンブラン登頂に成功したというニュース、聞かれませんでしたか？　岡山・玉島の柴田病院の伊丹先生が中心になって癌患者が自ら癌と認知し、積極的に生き、免疫中枢を高めることがねらいで、今日、アメリカのガン患者との交流を深め、共同体験の中で今なすべきことを考え、行動するテーマのもとサポート隊として六期生の田辺さん、河原さん、長本さんと四人で参加させて頂きました。ガンと知りながらも強く今一瞬を大切に前向きに生きている難病者の方を前に、またアメリカの雄大な自然の前に、私自身、精一杯今を大切に私らしく素直に生きようと今胸いっぱいなんです。

第1看護科
第6期生　**河原あゆみ**（倉敷市）

学院の諸先生方、第一看護科六期生の皆様、お元気ですか。

海外旅行なんて一生に一度も行くことはないだろうな…と思っていましたが、この夏、四泊六日のアメリカ体験をしました。

新聞紙上でご覧になられた方もおられると思いますが、〝生きがい療法　アメリカ交流体験ツアー〟です。勤務の都合で、一部日程のみの参加で、期間としては短かったのですが、毎日が感動の連続で、短いながらも充実度の高い四日間でした。四日間の滞在中は、初めてのホームステイを体験して、私は和英辞典を、ホストファミリーは英和辞典を片手に〝言葉の壁〟に悪戦苦闘をしましたが、お互いが一生懸命に理解しようと耳を傾け、身ぶり手ぶりで知っている単語をつなげて何とか、生活に支障をきたすことなく過ごしました。でも、真剣に関われば関わるほど、心の奥にふれることができないことや、今の感動を相手に伝えることができないのが残念で、帰国後、さっそくラジオの英会話をスタートしました。この同窓会だよりで皆様に公表したのですから、もう三日坊主にはできませんね。

四日間の中で最も感動したのは、癌と闘病中の患者さんの生き方です。〝今日出逢ったこの人とは生涯二度と逢うことができないかもしれない〟と、〝生〟を真剣にみつめて一瞬一瞬を大切に生きておられます。死への恐怖を否定せず、身近な世界に目をむけて、自分の設定したゴールにむけて行動することで、生きることの喜びや価値を感じ、患者である前に、一社会人である彼らの生き方は、看護婦としてでなく一人の人間として感動し、彼らから〝生〟のよろこびや生きる勇気をたくさん、たくさん頂いた様に思います。

同窓生の皆様にも〝今〟を大切に生きてほしいと心から思います。限りある生命の中で、自分の人生の一瞬一瞬を大切に…。

辻村久美子さんのことは、今でも信じたくない悲しいことですが、今まで彼女が私たちに与えてくれた明るい笑顔を忘れないで、今度は、私たちが彼女に代わってやさしく、明るく、人に対して接することができるように心がけたいと思います。

第1看護科
第8期生　**正木　千恵**（岡山市）

九月に入りましても衰えぬ暑さに、身の置き所もなく困り果てています。

学院を卒業したのが昨日のように感じられ、白衣やキャップを懐しく思いつつペンを取りました。未来を語り合った友の顔が次々と思い出されます。……進学して五ケ月が過ぎました。緊張感と厳しさを身にしみて感じる毎日です。大学で講義を聞き、家に帰っても勉強で一日が終わり、ゆとりがないためか時間にふりまわされているようです。七月からは教育実習も始まり、思春期の子供達の心と体について考え、話をしていますが、どう接したらいいのか分からない時もあります。人間誰でも苦しい事つらい事にぶつかりますが、逃避することなく立ち向かいたいものですね。私も一身を燃やしつくし人間性豊かな養護教諭を目指してがんばっていきたいと思います。学院で学んだ〝人の心を大切に〟という姿勢をいつまでも忘れることなく…。後輩の皆さんも若い情熱を燃やしてがんばって下さい。

最後に、学院の益々のご発展とご活躍を心から祈っております。

看護科　第二看護科

看護科
第1期生　**関家あけみ**（旧姓　黒田）（千葉県松戸市）

学院及び卒業生の皆様、お元気ですか。

結婚して五年目、現在千葉にて主婦業に専念しています。長男四才、次男一才十ケ月、三男四ケ月と男の子ばかりの五人家族です。

長男を出産してから坐骨神経痛という上品な病を背負ってしまい、次男出産後は激痛の為に歩行困難となり、半年間実家（松山）での療養生活をしいられました。実家にいる半年間は、お灸に針、漢方薬や腰痛体操etcとあらゆる手をつくして治療しながら、二人の子育てにひっしの毎日でした。お父さん子だった長男は半年間の別居生活が少しばかりつらかったようでした。

そして今は、……充分でない腰をかばいながら痛みと共に歩む生活に慣れてまいりました。まだ、よくしゃべれない次男は、私が腰痛体操をしていると寄ってきて痛い所をそうっとさすってくれたりいたします。

三人の子供のおふくろになってみて、我慢と忍耐と寛容の連続を強要されつつも子育ての大切さ、大事さを身にしみて感じ、病も、又益と思えるこの頃です。子育て期の小刻みな時間にしかできない小さな愛のわざをまたいつの日にか看護に生かすことができたら…と考えています。輝いて生きたい、これが、今の私のささやかな願いです。

ではみなさま　ごきげんよう！
頑張って下さい。

看護科
第2期生　**山本　基子**（赤磐郡）

皆さんお元気ですか。職場で家庭でと一層の御活躍の事と思います。

昭和四十九年に卒業し、早いもので十四年も過ぎました。入学時三ケ月であった長女も、今では高校二年生になりました。身長も私とあまり変わらなくなっています。長男中学一年、二男小学三年生と三人の子供達と共ににぎやかな日々を送っています。

現在、旭川療育園に勤務しております。学院の後輩が実習に来られますので、その指導に当る者の一人として充分な事は出来ませんが、頑張っております。

又、毎年行なわれております同窓会では、一人でも多くの皆さんのお顔を見る事が楽しみですが、皆様お忙しい為になかなか集まれず淋しく思っております。ぜひ多くの方に参加していただいて楽しい同窓会にしてゆきたいものです。皆様の御協力をよろしくお願いします。

皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

看護科
第4期生　**大島ヤエ子**（旧姓　海部）（滋賀県守山市）

学院を卒業してはや十二年。時の経過は早いものです。御無沙汰ばかりの十二年ですが、故郷に帰るたびに、新幹線の車窓から見える旭川荘の景色は、楽しかった学院生活を思い出させてくれます。

滋賀に嫁ぎ来て十一年、以来三人の子どもを得、今は県立の総合保健専門学校で看護学科（二年課程）の教員をしております。

教育に入ってみて、人を育てることの困難さを感じるたびに、教えていただいた先生がたの御苦労が、今さらながらよくわかります。

そして、今の私にとっては学生時代に培ったものが「心の糧」になっているようでございます。

同級生の方々にも御無沙汰しておりますが、皆さん、それぞれに責任ある立場で御活躍のことと思います。いつかまた、共に母校を訪ね、思い出を重ねたいと願っております。

今回紙上で御挨拶できる機会をいただき心から感謝致しております。そして、学院（母校）の一層の繁栄を願うものです。

看護科　第4期生　高増（旧姓　金原）栄子　長崎県佐世保市

同窓生のみなさま、お元気でしょうか？　私は三年前、二児出産と主人の母の病気の為退職いたしました。今は小二男子と三才の女子と忙しいながらも平凡な毎日を過ごしております。職場を離れて育児に専念して感じることは、母親の愛の大切さを知ったことです。又主人の母も、くも膜下出血手術後三年になりますやっ以前よりもの忘れをする程度ぐらいで元気になってくれました。母の看病中「貴女が看護婦でよかった」と時々感謝の言葉をかけてくれたものでした。今は職場からは離れていますが、看護婦になってよかったと感じております。二年間学ばせていただいた学院の発展をお祈りいたします。最後に事務局の皆さま、いつもお世話ありがとうございます。

看護科　第6期生　高野　稔子（島根県出雲市）

六期生の皆さん、お元気ですか。当時を振り返りちょうど十年の歳月が流れていることに驚きながら、その間どれほど自分が成長したのかを考えさせられています。

現代医学の進歩に併い、高度医療の波、変容する医療の中で看護の独自性も、医療技術や知識的なことのみにとらわれてきた中で、臨床場面でも患者中心の医療が望まれ、社会的にも人間らしく生きることが問題となっている昨今…現在施設看護婦として働く中、その人間らしく生きるとはどのようなことなのか、すなわち臨床場面で見失なわれがちな看護の原点や基本を学ばせてもらっています。それはどんな高度な専門書よりも生きた教科書が自分自身を支えてくれているのです。とはいっても卒後十年…旭川の流れる清流を散歩した夕暮れ時や苦しかった旅の口山登山など自然環境に恵まれた母校での学びの一時の想い出は、しっかりと自分の根底に根づいていることに気づかされる今日この頃です。

第2看護科　第7期生　和田（旧姓　丹治）さゆり　福岡県北九州市

卒業以来、御無沙汰していて、すみません。同窓会だよりは、毎年、楽しみにしているのですが、いざ書く方になってくると、何を書こうかと悩んでしまいます。

私にとっての学院時代は、勉強には追われながらも毎日がとっても楽しかった様に思います。寮生活も、仲間に恵まれていたし、学院祭などでは、やたらハリキッちゃってたし、休みの日ともなれば岡山の思い出作りにと、いろんな所へ出かけて…最高の時を過ごせたと思ってます。あの頃親しかった友達とは今でも時々手紙など交換していますが、その他、時々どうしているのかなぁー？って思い浮かびます。

それでは私の近況について簡単に書きます。

学院卒業後、神奈川県で二年間、その後山口県の下関で働いていましたが、結婚後退職し、今は北九州の小倉に住んでいます。子供は一才九ケ月になる娘が一人います。がこの子がなかなかで、毎日悪戦苦闘しています。近くに同世代の人がいないので働きたいなぁ！なんて考えてもいますが、子供のためにもう少しがまんしようかとも思っています。と、こんなところです。

最後に守屋先生が学院を去られたと知りショックでした。あんなにお世話になった先生だったのに、卒業後一度も手紙を出さなかった事、本当に後悔しています。先生長い間お疲れ様でした。

第2看護科　第9期生　井上（旧姓　片伊勢）晴美　島根県出雲市

春のあたたかい陽射しを受け、下宿の荷物をまとめた事が、ついこの間のような気がしていたのに、いつの間にか七年もの歳月が流れてしまいました。

その間結婚、出産と人生の大きな出来事に出会い、五才と三才の子供を持つ身となりました。今迄は、連日の家事と仕事に追われ自分のしたい事も出来ずにいましたが、しかし最近では、子供からもやっと手が離れ一段落です。夫に二人の子供をまかせて、友人と旅行を楽しむという余裕も出て来ました。

これからも上手に息ぬきをし乍ら、家庭と仕事を大事にしてゆきたいと考えています。

最後になりましたが、旭川荘が今後も発展・充実して行く事を、出雲の地から祈りながらペンを置く事にします。

第2看護科　第11期生　小林（旧姓　高杉）尚枝　岡山市

第二看護科第十一期卒業生の皆様お元気ですか。

私は、三才と二才の子供の母親で、専業主婦をしています。下の子のおむつもとれて、子育てもやっと一息ついたところです。

そろそろ仕事をしたいと思うのですが、家事や育児や仕事を両立できる自信もないのです。卒業後ずっと仕事を続けている友達をみると、少々あせりを感じるこの頃です。とりあえず、今は今しかできないことを、がんばらなくてはと思います。

第2看護科　第14期生　奥村　千鶴　岡山市

第十四期生のみなさん、元気にしてますか。

私は、現在、セントラル・シティ病院の詰所でNsとして仕事をしてます。卒業し仕事について三年目に入りました。後輩にまじって共に業務に従事してます。その中で後輩に教えられることもあります。患者さん達に接していて〝何故〟と思っていることをたくさんなげかけてくれるからです。〝初心忘れるべからず〟で、あらためて看護者として忘れていたことを思いおこさせてくれます。

これからも相手の立場に立ってものごとを考えられる看護者になりたいと思います。在学中のみなさんも実習、学習にがんばって下さい。諸先生方も健康に注意してがんばって下さい。

第2看護科　第15期生　沖田　幸雄（島根県浜田市）

卒業してはや一年余の月日がたち、学院での生活が懐しく思い出される今日この頃です。私は現在、障害児施設に看護士として勤務し、子供達と共に日々療育に励んでいます。施設で働く私にとって旭川荘での二年間はとても貴重な体験となり、学んだことが日々の療育に大変役立っています。このたび福祉科を設立され、介護福祉士を養成されると聞き、とても嬉しく思います。私達の施設でも、福祉専門の職員がとても必要だと感じています。学院は全国でも有数の施設職員の養成学校であり、私は学院の卒業生であることを誇りに思っています。どうか後輩の皆さんも、福祉の分野で活躍してほしいです。

岡山より遠く離れた島根ではなかなか学院にも行けないし、同窓生と会うこともできませんが、遠くより学院の発展と皆様の御健康をお祈りしています。

第2看護科　第16期生　栗島　和子（兵庫県赤穂市）

私が一社会人となり、はや四ケ月が過ぎようとしていますが、卒業式に言われた〝あなた達はこれから甘えてはいけないのですよ〟の言葉を痛感しております。

働き出して、何度も涙することが多かったのですが、自分よりももっとつらい想いをしている友のこと、また同じ悩みをもつ友…かけがえのない人達とのつながりが今も確かにある、ということを励みに頑張っています。

今、私は、内科・外科・脳科・耳鼻科等の混合病棟での勤務です。夜勤では外来もみるので、毎日ドキドキと緊張の中で、又、新しい勉強ばかりで大変ですが、何と言っても私のこと、〝あいそと返事だけはいい栗島〟〝口上手の世渡り上手〟と呼ばれながら強く生きています。

毎日のあわただしい忙しさの中でも「私」を見失うことなく、先生方に〝よく頑張ったネ〟と言って頂けるような素敵なNsになります。

自分のやりたいことがいっぱいで、私の姓が旧姓になるのは、まだまだずうっと先のことのようです。あしからず。

では、学院の皆様　お元気で。さようなら。

編集後記

○お忙しいところ原稿をお寄せ下さいました同窓生の方々、誠にありがとうございました。

○第17回学院祭とかねて、十一月六日の同窓会総会には多数御出席下さいますようお待ちいたします。

（同窓会事務局）